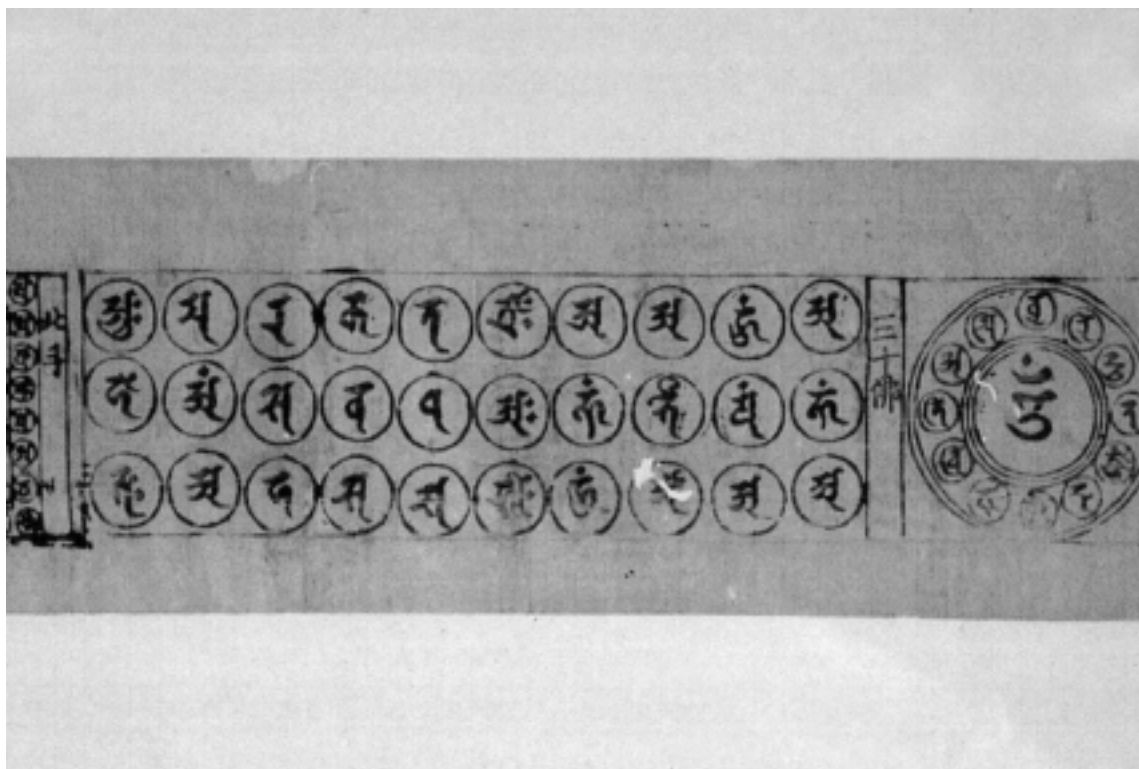


学 内 広 報

2001. 5. 23
 東京大学広報委員会

東京大学所蔵仏教関係貴重書展



▲真言陀羅尼（総合図書館所蔵）

（5 ページに関連記事）

目 次

一般ニュース	2
名誉教授の称号授与	
部局ニュース	3
教養学部で浅島誠教授の講演会が開かれる、 教育学研究科・教育学部公開シンポジウム開 催される、未来の科学者サテライトスクール 2001	
掲示板	5
「東京大学21世紀学術経営戦略会議（UT21 会議）」にご意見をお寄せください、第49回 学内レガッタの開催、初心者水泳講習会の開	

催、「東京大学所蔵仏教関係貴重書展」のお 知らせ、第20回東京大学農学部公開セミナー、 金時俊先生講演会のお知らせ、大学院数理科 学研究科修士課程の学生募集について、駒場 リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）一般公開、6 月・7月のデータベース定期講習会のお知ら せ、Web of Scienceデータベースのサービス 拡充のお知らせ、21世紀の地球環境を考える サマーワークショップYES2001のお知らせ	
噴 水「天然原子炉の予言と発見」	10
訃 報（山内太郎名誉教授）	11
淡青評論「国立大学と納税者」	12

≡ 一般ニュース ≡

5月15日（火）開催の評議会において、次の事案が承認された。

名誉教授の称号授与

東京大学名誉教授称号授与規則により、次の58人に名誉教授の称号を授与することとなった。

部局	氏 名	担 当 講 座 等
法	青 山 善 充	民事手続法講座
医	新 美 成 二	認知・言語医学講座
医	芳 賀 達 也	基礎神経医学講座
医	前 川 和 彦	生体管理医学講座
医	脊 山 洋 右	生化学・分子生物学講座
工	宮 健 三	原子炉機器工学部門
工	大 園 成 夫	精密情報システム工学講座
工	前 田 久 明	海洋・輸送システム講座
工	金 原 勲	海洋・輸送システム講座
工	松 爲 宏 幸	機械エネルギー工学講座
工	牧 島 亮 男	材料設計学講座
工	吉 本 堅 一	知能機械学講座
工	畑 村 洋太郎	設計生産工学講座
工	近 藤 恭 平	航空宇宙システム学講座
工	藤 元 薫	物質応用化学講座
工	齊 藤 忠 夫	情報電子工学講座
工	辻 川 茂 男	材料物理化学講座
工	堀 江 一 之	化学生命機能工学講座
工	中 島 尚 正	設計生産工学講座
工	酒 井 宏	産業システム学講座
文	木 村 清 孝	インド哲学仏教学講座
文	湯 川 恭 敏	言語学講座
理	小 川 利 紘	地球惑星圏物理学講座
理	杉ノ原 伸 夫	海洋モデリング分野
理	壽榮松 宏 仁	広域理学講座
理	石 川 統	動物科学講座
理	塩 川 光一郎	動物科学講座
理	若 林 健 之	生物物理学講座
農	石 井 龍 一	応用生物学領域講座
農	若 林 久 嗣	水圏生産環境科学講座
農	高 橋 英 司	比較動物医科学講座
農	松 本 聰	生物生産化学講座

農	野 口 忠	食品科学講座
農	山 崎 素 直	食品科学講座
養	蓮 實 重 彦	表象文化論講座
養	松 野 和 彦	言語習得論講座
養	永 野 三 郎	情報システム学講座
養	山 中 桂 一	国際コミュニケーション講座
養	成 田 篤 彦	ヨーロッパ・ロシア地域文化講座
養	浅 野 攝 郎	物質設計学講座
養	小 川 晴 久	文化人類学講座
養	麻 生 建	ヨーロッパ・ロシア地域文化講座
育	大 村 彰 道	教育心理学講座
地震	大 中 康 譽	附属地震予知研究推進センター
地震	石 井 紘	附属地震地殻変動観測センター
東洋	岡 本 サ エ	汎アジア研究部門
社研	西 田 美 昭	比較現代社会部門
生研	二 瓶 好 正	情報・システム部門
生研	工 藤 徹 一	附属材料界面マイクロ工学研究センター
生研	木 内 學	情報・システム部門
生研	鈴 木 基 之	人間・社会部門
生研	鈴 木 敬 愛	物質・生命部門
生研	生 駒 俊 明	画像情報機器学部門
宇宙	荒 船 次 郎	超高エネルギー強相互作用第二部門
宇宙	木 舟 正	超高エネルギー弱相互作用部門
物性	毛 利 信 男	極限環境物性研究部門
物性	斯 波 弘 行	理論部門
海洋	川 口 弘 一	海洋生態系動態部門

「評議会構成員等に関する検討委員会」及び「名誉教授制度検討委員会」の設置

(設置の理由) 昨年度評議会の下に設置された「中枢組織の整備に関する懇談会」において、評議会構成員等及び名誉教授制度についての検討が行われた。同懇談会は、いずれについても最終的な結論を得ることなく、検討の経過をとりまとめたうえで、引き続き検討を課題として確認し、解散した。

以上の経緯をふまえ、これらの継続的課題を検討するために、評議会の下にあらためて「評議会の構成員等に関する検討委員会」及び「名誉教授制度検討委員会」を設置することとした。

(構成員)

評議会構成員等に関する検討委員会

小間副学長、研究科長 若干名、研究所長 若干名、
事務局長、総長補佐 若干名

名誉教授制度等に関する検討委員会

廣渡総長特別補佐、研究科長 若干名、研究所長 若干名、
事務局長、総長補佐 若干名

大学間学術交流協定

- ・ アデレード大学 (オーストラリア) との学術交流に関する大学間協定
- ・ サウザンプトン大学 (連合王国) との学術交流に関する大学間協定
- ・ シュツットガルト大学 (ドイツ連邦共和国) との学術交流に関する大学間協定

上記のほか、本学における大学間協定及び部局間協定をお知りになりたい場合は、事務局ホームページ (<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/kyotei.html>) をご覧下さい。

≡ 部局ニュース ≡

教養学部で浅島誠教授の講演会が開かれる

5月9日(水)午後4時半から、駒場キャンパス大学院数理科学研究科大講義室で、教養学部の連続講演会が開かれた。この連続講演会は、教養学部創立50周年を記念する事業の一環として昨年度から企画・実施され、今回は今年度学士院賞・恩賜賞の受賞が決まった浅島誠教授(広域科学専攻生命環境科学系)に、受賞の対象となった研究について、学部学生向けにわかりやすく語ってもらうことにした。

講演会は司会役の小林康夫評議員の挨拶で始まり、浅島教授が「卵から親への形づくりの謎を解く——研究者への道とは」という演題で、約1時間の講演を行った。会場を埋め尽くした学生、教職員約350名を前に、浅島教授は発生生物学の歴史、および自身の研究者としての道のりをふりかえりつつ、生物の形態形成の謎とそれを解明する喜びを、具体的かつ魅力的な語り口で講じた。「情報や本の知識だけではなく、自然に学ぶこと」「課題には情熱をもって取り組むこと」「予測に反する結果が出て、それが大きな発見につながりうること」「オリジナルな研究をめざすべきこと」など、これから科学研究を志す若い世代への熱いメッセージは、聴衆の深い共感を呼び、講演が終わるや、会場の学生からは次々に質問の手が挙がった。

講演会の終了後、学士院賞受賞および紫綬褒章受賞のお祝いをかねて、古田元夫教養学部長の主催で、浅島教授を囲むパーティーが開かれ、教職員・学生約50名が参加した。



講演中の浅島誠教授

(大学院総合文化研究科・教養学部)

教育学研究科・教育学部公開シンポジウム開催される

教育学研究科・教育学部では、3月23日（金）午後2時30分から経済学部第5教室において「これからの教育学部と教育学研究―東京大学教育学部・教育学研究科の自己点検・学部評価を踏まえて―」をテーマに公開シンポジウムを開催した。

このシンポジウムは、1月22日（月）に実施した自己点検・外部評価の結果を踏まえて、本研究科・学部における教育・研究活動の在り方と社会的役割について学内外の参加者とともに考えることを目的に開かれたものである。

前半は、教育活動、研究活動、アウトリーチ活動、管理運営システム、学生調査（学部・大学院）の5項目についての本研究科スタッフによる自己点検結果の概要報告があり、後半では、その報告と関連資料等を踏まえて、麻生誠（外部評価委員会座長 放送大学副学長）、小笠原道雄（放送大学教授広島学習センター所長）、佐藤公正（朝日新聞社報道と人権委員会事務局長）、東 洋（文京女子大学教授）、藤田英典教育学部長をパネリストとして、教育学部教育の課題、教育学研究の課題、大学の社会的責任、これからの時代の教育学研究者の仕事、教育学部の現状と課題の各項目についてそれぞれ報告の後、活発なディスカッションが行われた。シンポジウムには学内外の研究者・学生等約70名の参加があった。



（教育学研究科・教育学部）

未来の科学者サテライトスクール2001

―サイエンスアカデミー―物性研究所コース開催される。

千葉県、および千葉県教育委員会が主催する上記の科学教室が、4月2日、3日の両日柏キャンパスの物性研究所で開かれた。未来の科学者サテライトスクールは、青少年の科学への興味・関心や創造的能力を養うための環境作りの一環として平成9年度から千葉県によって実施されている中・高校生などの青少年を対象としたもので、東京大学が柏キャンパスをオープンしたことにより、このサイエンスアカデミーのコースが新たに加えられている。

今回のコースの内容は、物性研究所 吉信 淳 助教授による講義「電子を使って物質をはかる・みる」が行われた後、このスクールのために準備された実験および施設見学が実施された。千葉県の広い地域から応募し、選ばれた19名の高校生が参加し、最先端の研究設備を見学しながら様々な疑問について教官や大学院生に熱心な質問をし、普段なかなかできない実験を楽しんだ。最後に参加者は修了証書を受けとって二日間の日程を終えた。



▲ 実験を試みる参加者達

（物性研究所）

≡ 掲示板 ≡

「東京大学21世紀学術経営戦略会議（UT21会議）」にご意見をお寄せください

東京大学の教職員・学生の皆様

東京大学憲章に関するパブリック・コメントの実施について

国立大学を取り巻く社会的環境が、いま、大きく変化しつつあります。その中で、東京大学がそのときどきの時流に流されることなく、あるべき姿に向かってたゆみない発展を続けて行くためには、めざすべき目標を提示し進むべき方向に指針を与える「大学憲章」を持つことが必要であると思われます。とりわけ、現在議論の俎上にのぼっている国立大学の法人化をめぐる問題との関連においても、東京大学の長期的な目標を「大学憲章」という形で示すことには重要な意義があると考えられます。

そこで、この度、東京大学21世紀学術経営戦略会議（UT21会議）がまとめた東京大学憲章に関する「論点整理（案）」を公表し、憲章の起草に向けて広く本学構成員の意見を募ることにいたしました。皆さんの積極的な御協力をお願いいたします。

平成13年 5月21日
東京大学21世紀学術経営戦略会議
座 長 佐々木 毅

「論点整理（案）」に関する詳細および意見提出方法については次のURL（<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/ken-sho-pc.html>）をご覧ください。設置期間は平成13年5月21日（月）から8月20日（月）となっております。なお、本パブリック・コメント手続は東京大学の教職員・学生が対象となるものです。

（UT21会議 憲章準備小委員会）

第49回学内レガッタの開催

今年で49回目を迎える学内レガッタをご存知でしょうか？

レガッタとは、数名からなるクルー（漕ぎ手）がボートに乗り込み、コックス（司令塔）の指示のもと力を合わせてオールを漕ぎ、順位を競う競技です。

本大会では、ナックルフォアという安全を重視した4名で漕ぐボートを使用し、コックスとしてボート部員が同乗するため、沈没等の心配なく楽しくボートレースをすることができます。

埼玉県戸田市にあるオリンピックボートコースを借り切って行われる学内レガッタ。この機会に是非参加してみたいかがでしょうか。

日 時 6月9日（土） 9時30分～

雨天中止

場 所 戸田オリンピックボートコース（埼玉県戸田市）
対 象 本学学生・教職員
募 集 32チーム（1チーム4名）
参加費 一人500円（保険料込み）
受 付 5月21日（月）より下記の場所にて行います。

○本郷：御殿下記念館モール階運動会受付窓口
9時30分～12時00分
13時00分～17時00分
○駒場：学生課4番窓口
9時00分～12時30分
13時30分～16時30分

〔問い合わせ先〕

学生部学生課体育第一掛（内線22509～22511）

（学生部）

初心者水泳講習会の開催

初心者の方を対象に、今年も水泳講習会を開催します。奮ってご参加ください。

日 時 6月11日（月）、13日（水）、15日（金）、
18日（月）、20日（水）、22日（金）

計 6日間

上記日の17時45分～19時15分（1時間30分）

場 所 御殿下記念館プール

対 象 本学学生・教職員（運動会員）

{初心者（全く泳げない）、初級者（息継ぎができない）に限ります}

定 員 30名（定員になり次第締め切ります）

受講料 500円（6回分）

受 付 5月23日（水） 9時30分～

御殿下記念館モール階 運動会受付

説明会 6月6日（水） 17時45分～18時15分

御殿下記念館内第一研修室

講 師 東京大学水泳同好会（日本水泳連盟公認指導員）

〔問い合わせ先〕

学生部学生課体育第一掛

（内線：22509～22511）

（学生部）

「東京大学所蔵仏教関係貴重書展」のお知らせ

6月20日（水）～7月4日（水）開催（6月28日を除く）

附属図書館では今年度、「東京大学所蔵仏教関係貴重書展」と記念講演会を開催します。

アジアにおける書物の流通・発展を考えると、仏教の果たした役割を無視することはできません。今回は、総合図書館・文学部・東洋文化研究所などで所蔵している多数の貴重な仏教関係の写本・刊本を展示することにより、アジア及び我が国における仏教と書籍文化の関係

を立体的に浮かび上がらせます。

展示会終了後は、インターネットを通して、電子展示としてご覧になることができます。

(URL: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp>)

A. 展示会:「東京大学所蔵仏教関係貴重書展」

会期:平成13年6月20日(水)～7月4日(水)(14日間)

土曜日・日曜日も開催します。

ただし、6月28日(木)は休館日のためお休みです。

時間:10時～17時(最終日は16時まで)

会場:総合図書館3階ロビー

主な出展資料:

- インド・チベットの写本・刊本
- 中国・朝鮮の写本・刊本
- 日本の写本・刊本(古代・中世)
- 日本の写本・刊本(近世・近代)
- 合計 約50点

B. 記念講演会

日時:平成13年6月21日(木) 13時30分～15時00分

場所:総合図書館3階大会議室

講師:末本文美士教授(大学院人文社会系研究科・文学部)

齊藤 明教授(大学院人文社会系研究科・文学部)

演題:「東京大学所蔵仏教関係貴重書について」

*終了後、講師による展示案内を予定しています。

問い合わせ先:附属図書館情報サービス課参考調査掛

電話 03(5841)2647

電話 03—5841—5484、8179

主催:東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部

共催:(財)農学会

金時俊先生講演会のお知らせ

ソウル大学校名誉教授の金時俊先生が、東京大学文学部布施博士学術基金による招聘で6月28日から7月3日までの予定で来日されることになりました。以下の予定で講演会と歓迎懇親会を開催しますので、お誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

日時 6月30日(土) 開場14:30、15:00～17:00

場所 東京大学山上会館地下002会議室(定員40名)

講師 金時俊先生

題目 ソウル大学中国文学系における研究の回顧と展望
(中国語、通訳なし、ペーパーを実費にて頒布)

コメンテーター 丸尾常喜先生

会費 無料

また当日講演会に続けて同会場にて立食式懇親会(17:30～19:30、会費5,000円)を開催します。講演会、懇親会に参加ご希望の方はE-MailまたはTEL、FAXにて①講演会のみ参加、②講演会・懇親会両方に参加、③懇親会のみ参加のいずれかご回答をお寄せ下さい。なお会場の都合により、お申し込みが定員に達した時点で締切らせていただきます。ご了承ください。

問い合わせ先 文学部中国語中国文学藤井研究室

E-Mail fujisho@l.u-tokyo.ac.jp (@l.uのlはLiteratureのlです)

TEL 03—5841—3825

Fax 03—5841—3817(文学部事務室)

東京大学文学部教授 藤井省三

第20回東京大学農学部公開セミナー

「生物の多様性と農学」

1)「人工林造成と多様性—産業造林と環境造林—」

附属演習林 丹下 健教授

2)「生物多様性を科学することの意義」

生圏システム学専攻 宮下 直 助教授

3)「微生物の多様性」

農学国際専攻 小柳津 広志教授

日時 平成13年6月9日(土) 午後1時30分～

場所 東京大学農学部 弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1

地下鉄南北線「東大前」下車 徒歩1分

地下鉄千代田線「根津」下車 徒歩7分

対象 一般(どなたでも参加できます)

定員 300名(当日先着順)

参加無料

問い合わせ先 東京大学農学系総務課

広報情報処理掛

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

大学院数理科学研究科修士課程の学生募集について

平成14年度大学院数理科学研究科修士課程の入学試験日程等は、次のとおりである。

1. 受入予定人員 53名

2. 出願受付期間 平成13年7月23日(月)
～平成13年7月27日(金)

出願は郵送に限る。

7月27日(金)までの消印は受付ける。

3. 試験期日

(1) 筆記試験 平成13年8月27日(月)
8月28日(火)

(2) 口述試験 平成13年8月30日(木)
8月31日(金)

募集要項は、数理科学研究科大学院掛で現在配布中である。

(大学院数理科学研究科)

駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）一般公開

駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）では、下記のとおり7つの研究所・センターにおいて、2日間にわたり12の講演を含めた研究室の一般公開を行います。

皆様のご来場をお待ちしております。

日 時

平成13年6月7日（木） 10:00～17:00

平成13年6月8日（金） 10:00～16:00

（両日とも終了の1時間前までにご来場ください。）

場 所

東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学駒場リサーチキャンパス

小田急線・東北沢駅から徒歩7分

小田急線・地下鉄千代田線・代々木上原駅から徒歩11分

京王井の頭線・駒場東大前駅から徒歩10分、池ノ上駅から徒歩10分

研究室公開

・生産技術研究所 [IIS]

URL <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/>

TEL 03-5452-6008～9

・先端科学技術研究センター [RCAST]

URL <http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

TEL 03-5452-5381

・人工物工学研究センター [RACE]

URL <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>

TEL 03-5453-5882

・国際産学共同研究センター [CCR]

URL <http://www.ccr.u-tokyo.ac.jp>

TEL 03-5452-6022

・空間情報科学研究センター [CSIS]

URL <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-5690

・気候システム研究センター [CCSR]

URL <http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5453-3950

・先端経済工学研究センター [AEE]

URL <http://www.aee.u-tokyo.ac.jp/>

TEL 03-5452-5360

講演（申し込み不要、聴講は無料です。）

・生産技術研究所第1会議室（Bw-701）

6月7日（木）

11:00～11:50 田中 肇

「相分離とパターン形成：サラダドレッシングから宇宙まで」

13:00～13:50 浅川 賢一

「海底ケーブルの建設保守と水中ロボット」

14:00～14:50 榊 裕之

「ナノテクノロジーと半導体デバイスの進展」

6月8日（金）

11:00～11:50 荒木 孝二

「ナノからマクロへ—新世代の有機超分子材料」

13:00～13:50 須藤 研

「国際災害軽減学にパラダイムはあるか？」

・先端科学技術研究センター4号館2階講堂

6月7日（木）

13:00～14:00 山本 良一（CCR）

「環境新世紀の経済—脱物質・サービス経済の展望」

14:00～15:00 福島 智（RCAST）

「障害者と科学の未来」

15:00～16:00 岩田 修一（RACE）

「データベースからの知識発見—アブダクションの実装」

6月8日（金）

10:00～11:00 相澤 龍彦（RCAST）

「固相非平衡プロセスからの機能性材料創製—熱電材料・水素吸蔵合金・2次電池材料に関する新しいものづくり—」

11:00～12:00 今須 良一（CCSR）

「地球温暖化物質を宇宙から測る」

13:00～14:00 小宮山 真（RCAST）

「化学が生み出す次世代バイオテクノロジー」

14:00～15:00 島田 晴雄（AEE）

「日本経済新生の戦略—情報革命と生活産業の創出—」

6月・7月のデータベース定期講習会のお知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおり6月・7月のデータベース定期講習会を実施します。文献検索の実習を行う各種コースです。参加予約は不要です。どなたでもお気軽にご参加ください。

また、ご要望に応じた内容で出張講習会も行います。授業やゼミ単位でお申し込みください。

場所

□総合図書館1階メディアプラザI 講習会コーナー
各コースの内容

コース名	内 容
文献検索入門 コース <i>Let's begin</i>	初めての文献検索を行う方で、基本を知って効率よく文献を探したい方向き 基本的なOPACなどのデータベースを使って文献の探し方を検索実習するコースです。
人文・社会科学 文献検索コース <i>Step Up</i>	基本的な文献検索に関する知識を持ち、専門分野の文献検索をしたい方向き 雑誌記事索引、Web of Scienceなど全分野のデータベースの検索実習と人文・社会科学分野のデータベースを紹介するコースです。

自然科学文献 検索コース <i>Step Up</i>	基本的な文献検索に関する知識を持ち、 専門分野の文献検索をしたい方向き 雑誌記事索引、Web of Scienceなど全 分野のデータベースの検索実習と自然 科学分野のデータベースを紹介する コースです。
-----------------------------------	---

スケジュール

月	火	水	木	金
5/28 15:00~16:00 人 社	5/29 11:00~12:00 自 然	5/30 15:00~16:00 入 門	5/31 11:00~12:00 人 社	6/1
6/4 15:00~16:00 入 門	6/5	6/6 15:00~16:00 自 然	6/7	6/8 11:00~12:00 人 社
6/11	6/12 15:00~16:00 人 社	6/13 11:00~12:00 入 門	6/14 11:00~12:00 自 然	6/15
6/18	6/19	6/20 11:00~12:00 人 社	6/21 15:00~16:00 入 門	6/22 15:00~16:00 自 然
6/25 11:00~12:00 自 然	6/26	6/27	6/28 休館日	6/29
7/2 11:00~12:00 入 門	7/3 11:00~12:00 人 社	7/4	7/5 15:00~16:00 自 然	7/6
7/9	7/10 15:00~16:00 入 門	7/11 11:00~12:00 自 然	7/12	7/13 15:00~16:00 人 社
7/16 15:00~16:00 自 然	7/17	7/18 11:00~12:00 入 門	7/19 11:00~12:00 人 社	7/20 祝 日
7/23	7/24 11:00~12:00 自 然	7/25	7/26 休館日	7/27 15:00~16:00 入 門
7/30	7/31 15:00~16:00 人 社	8/1	8/2 11:00~12:00 入 門	8/3 11:00~12:00 自 然

問い合わせ先

情報基盤センター学術情報リテラシー掛（内線
22649）

E-mail literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

（情報基盤センター）

Web of Scienceデータベースのサービス拡充のお知らせ

情報基盤センターでは、昨年より引用索引データベース「Web of Science」を導入し、学内ネットワークで提供してきましたが、このたび「Web of Science」に1980年～1990年の遡及データを追加しました。これにより、1980年～最新の引用索引データが「Web of Science」から利用できるようになりました。

「Web of Science」は、通常のキーワードによる文献検索に加え、引用文献による文献調査が可能なデータベースです。各々の論文の被引用文献数や引用文献情報をWeb版インターフェイスによる簡単な操作で調べることができます。

<http://wos.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/wos/CIW.cgi>

[データベース範囲]

収録年：1980年～2001年

収録件数：約2,050万件（2001年5月現在）

データの更新頻度：毎週

収録内容：全分野にわたる主要な学術雑誌（約8,000誌）に掲載された論文の書誌情報と引用文献情報。



また、「Web of Science」をはじめとしたデータベースの利用に関する出張講習会も実施しています。ご希望の時間で研究室までお伺いしますので、ゼミや授業等でどうぞご活用ください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/shuccho.html>
問い合わせ先

情報基盤センター学術情報リテラシー掛（内22649）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

（情報基盤センター）

21世紀の地球環境を考えるサマースクールワークショップYES2001のお知らせ

マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学、チャルマーズ工科大学、本学の間で、地球環境を維持しつつ人間活動の持続的発展をめざし国際協力を進めているAGSでは、下記の通り、サマースクールワークショップYES（Youth Environmental Summit）2001をスイス・ブラウンバルトの山荘にて開催いたします。

Energy, Technology, Food and Water, Social Issuesの4つの観点から、講義、見学、討論、発表という手順で、持続性についての各自の考えを深め、共同提案書づくりを目指します。昨年度は12カ国28名の学生と20名余の講師陣とではほぼ貸し切り状態の山荘で2週間の熱いディスカッションを繰り広げました。また水力発電施設や畜産農家などの見学も行いました。使用言語は英語です。

参加資格は、学部生（4年生）および大学院生で、下記のA・Bの各セッションとも4大学から約5名ずつと4か国以外の各国から約20名の計40名を予定しています。

本ワークショップの趣旨に賛同し、応募御希望の方は、申込書に400語以内の英文エッセイを添えて、下記までお申し込みください。なお参加者は一人あたり1,000USドル（航空運賃含む）の自己負担が必要です。応募者多数の場合は審査のうえ決定させていただきます。その際に、指導教官またはそれに代わる方からの推薦状をいただく場合、また英語にて面接をする場合があります。

本学学生諸君の多数のご応募をお待ちしております。

日程：

Aセッション：2001年7月14日（土）～28日（土）

Bセッション：2001年8月18日（土）～9月1日（土）

日本出発は、いずれも開始日の前日です。

場所：

スイス連邦、ブラウンバルト

申込締切：

2001年5月31日（Aセッション）

2001年6月30日（Bセッション）

詳細説明および申込書様式：

<http://www.globalsustainability.org>

申込先：新領域創成科学研究科環境学専攻

味埜教授（mino@k.u-tokyo.ac.jp）

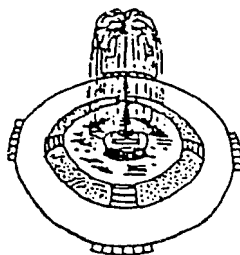
≡ 噴 水 ≡

天然原子炉の予言と発見 —— 大先輩、黒田和夫先生の偉業

本学理学部化学教室で太平洋戦争の前後の時期に活躍され、すぐに渡米し成功をおさめた黒田和夫先生が、本年4月16日午前6時45分にアメリカ、ネバダ州ラスベガスのご自宅でお亡くなりになりました。享年83歳でした。黒田先生は、1917年（大正6年）4月1日福岡県でお生まれになり、1939年（昭和14年）3月東京帝国大学理学部化学科を卒業後、副手、助手を経て、1944年に理学博士の学位を得、助教授となりました。

この間、柴田雄次、木村健二郎両教授のもとで希元素鉱物や温泉の分析・地球化学研究に専心され、1949年には第1回日本化学会賞を32才の若さで受賞されました。1949年にアメリカに赴き、1952年にアーカンソー大学の助教授になったのを機に1953年6月東大を退職されました。1955年にはアメリカの市民権も得、亡くなるまでアメリカで活躍され、64名のPhDを輩出し、原著論文・著書は400編にのぼります。

黒田先生の数多くのご業績の中で、1956年に天然原子炉を予言し、それが1972年にアフリカのオクロ鉱山で確



認されたことはあまりに有名です。U-235の存在比が現在より大きかった昔のウラン鉱床の中では、中性子減速に効く水の量と不純物など環境条件が満たされると核分裂連鎖反応が起きることを、公開されたばかりのFermiの原子炉理論を使って計算し発表しましたが、当時ほとんどの研究者がその現象の存在を疑問視し、注目もされませんでした。しかし、発表後10数年たってから、ガボン共和国のオクロ鉱山で17億年前に核分裂連鎖反応が起きたことが立証さ

れたことは、まさにサイエンスの醍醐味です。黒田先生はその他、太陽系初期における消滅核種Pu-244の存在の証明など、放射性核種の地球化学・宇宙化学に多大の貢献をなさり、アメリカ化学会の多くの賞や日本地球化学会の柴田賞（1991）を受賞されました。

戦前前後の激動の時期に科学に生きた化学教室の大先輩に改めて感謝の意を表します。

〔 大学院理学系研究科・理学部教授 〕
野津憲治

学術集会の予定をお知らせ下さい

今後開催を予定している学術集会（シンポジウム）、一般公開、展覧会等の諸行事の情報を広報室までお知らせ下さい。学内広報ならびに東京大学ホームページに掲載いたします。

タイトル、内容（簡単に）、日時、場所、連絡先（担当者、TEL、URL）等を可能な限り、ファックス、メール等にて知らせて下さい。また、これらの情報がわかるパンフレット、ポスター等でも結構ですので、お送り下さるようお願いします。

Tel 内線22031, 82032

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

山内 太郎 名誉教授

山内太郎(やまのうち・たろう)先生は、大正12年7月に広島県にお生まれになり、昭和17年9月に広島高等学校を卒業、同年10月に東京帝国大学文学部教育学科に入学、昭和18年12月に「学徒動員」により兵役に就き、昭和20年9月に召集を解除され復学して昭和23年3月に卒業、同年4月に大学院に進学して昭和25年4月まで在学し、この間東京高等学校講師をつとめられています。昭和25年東京大学教育学部助手に就任、昭和28年に専任講師となり、昭和34年に助教授、昭和44年教授に昇任、昭和52年から昭和54年まで教育学部長をつとめ、昭和59年4月1日に停年退官され、同年5月、東京大学名誉教授とされました。なお、停年退官後は年間、新潟大学で教鞭をとられています。

先生は、比較教育学講座の初代教授として、教育改革の比較研究、中東教育研究、イギリス教育研究と通じて比較教育学の発展に貢献され、多数の優秀な研究者の育成に尽力されてきました。昭和35年から37年にはロンドン大学で研究に従事され、イギリスの教育制度を対象とする比較教育学の発展の礎石を築かれるとともに、「イギリスにおける総合制中等学校の発展」「中等教育における教育課程改革の比較考察」などの論文で独自の学術



的探求を展開し、日本の中等教育の研究と改革に貴重な示唆を提供されています。

他方で、先生は「戦後日本の教育改革5 学校制度」(編著 昭和47年)に代表されるように、日本の中等教育の歴史研究の発展にも貢献され、多国間の比較研究と自国の歴史研究を交差させる重厚な学風を築いてくれました。

学内においては、教育学部長および大学院教育学研究科長として学部と大学院の管理運営に尽力されたほか、東京大学評議員、教職課程委員会委員長、大学院協議会委員、外国人学生委員会委員、入試管理委員会委員、東京大学創立百年記念事業委員会委員などの要職につかれ、東京大学の教育行政に貢献されました。また、学外においては、日本比較教育学会の創設に努力し、同学会理事、編集委員長として活躍され、あるいは、朝日新聞の全日本健康優良学校中央審査委員をつとめるなど、多方面にわたる教育と研究の発展に尽力されてきました。これらの功績により、先生は、平成11年11月3日勲二等瑞宝章を受けられました。

いつまでもお元気で後輩のご指導を続けられることを祈念しておりましたが、平成13年3月22日(77歳)お亡くなりになり、誠に痛惜の思いに耐えません。先生の御遺徳を偲び、ここに謹んでご冥福をお祈りします。

(教育学研究科)

国立大学と納税者

国立大学は「その活動や存在に税金を投入すること」を納税者に納得してもらう義務がある。納得する主体は、納税者の代理である政治家や官庁だけでなく、あくまでも一般の納税者が一番大事である。思い切って言えば、一般の納税者を悔ってはいけない。大衆はじっと見つめていると思う。これまで国立大学あるいは東京大学の存在が許容されてきたのは、もちろん「納税者にとってすぐさま役に立つ」面もあったであろうが、それだけではなく、日本の知的な活動の軸や核として認めてもらったからである。それは偏差値や引用される回数や受賞という分かり易いものだけで評価できない。もちろん改善すべき点はあるが、下手をするとアメリカ流の「改革」手段・方法によって、学問研究と教育にとって大事なものがなくなってしまう危険もある。



話は矛盾するが、リスクに対応するために分散投資するというアメリカ流の考え方にしたがえば「現在役に立ちそうにない領域」でも人材・資源は配分しておく必要がある。しかし

逆に、現在もっと「役に立ちそうな領域」を一樣に「枠の中」に押し込めておくのも得策ではない。

「世間」で必要性が高まっている領域について機動的に対応できる柔軟な組織であるべきである。

「枠の中」の硬直性を打破するには、今の「グローバリゼーション」と呼ばれるインパクトや、その中

で浸透するアメリカ流のやり方は有効であると思われる。

もっとも、通常は黙っている日本の納税者に敢えて問えば、「グローバリゼーション」の中で役立つ実戦的な領域を拡大することも必要だが、他方でその暴走を制御するような「人間の知恵」を養うことも大事と答えるであろう。日本の納税者を悔ってはいけない。

(社会科学研究所 渋谷博史)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[次号の原稿締切]

6月6日(水)午後5時

[訂正]

学内広報「人事異動特集号」No.1211(2001. 4. 2)において一部誤りがありますので訂正してお詫びします。

20ページ、18行目 加藤則子(新官職)

(誤) 大学院教育学研究科教授 → (正) 大学院教育学研究科助教授

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の上承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No. 1215

2001年5月23日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>